

エソアワビ幼生の浮遊期間の推定

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-11-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 高見, 秀輝
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012378

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



エゾアワビ幼生の浮遊期間の推定

海区水産業研究部

協力機関：宮城県気仙沼水産試験場

研究の背景・目的

1. 浮遊幼生期間は幼生の移動分散範囲や変態後の初期稚貝の生残に大きく影響
2. 幼生浮遊期間の推定は、アワビの加入機構や個体群の維持・形成機構を解明する上で重要

研究成果

1. 摂餌器官である歯舌は着底・変態可能となった被面子幼生期（4日齢）に形成，その後，歯舌列数は浮遊日数の経過に伴い増加
2. 室内実験により歯舌列数と浮遊幼生の日齢との関係を把握
3. 天然採集個体の歯舌列数から日齢を査定し，幼生浮遊期間を推定（最大で6日）
4. 着底・変態可能となった段階で速やかに底生生活に移行していることが判明

波及効果

1. 幼生の移動・分散範囲が解明
2. 産卵日が特定され，放卵・放精を誘発する主要因の推定が可能

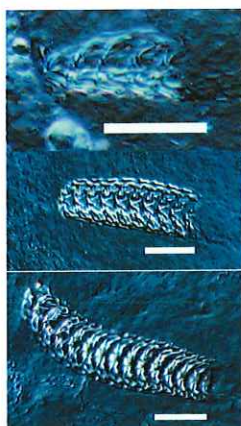


図1. 被面子幼生の歯舌
(スケール：20 μ m)
上：4日齢，列数5，中：6日齢，
列数10，下：8日齢，列数15

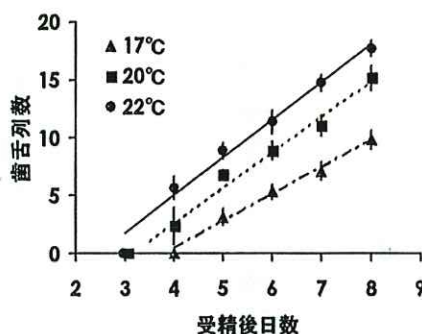


図2. 水温17, 20, 22℃で飼育した
エゾアワビ被面子幼生の受精後日数
と歯舌列数の関係

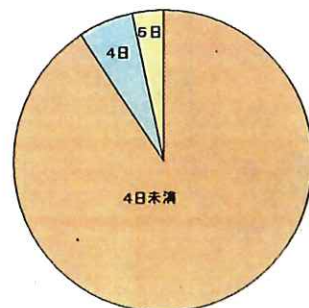


図3. 天然で採集された被面子幼生
の日齢組成 (n=88)